

シグマ研究委員会・遮蔽定数W・G・1978年度第1回会合議事録

日 時 1978年5月9日(火) 10:00~12:00  
場 所 原研本部第34会議室  
出席者 宮坂, 小山, 菊池(原研), 大竹(PNC), 岡(東大), 川合(N  
AIG), 松本(三井造船), 佐々木(研)(FBEO), 河北(MAPI)  
南(富士通), 竹村(川重), 山野(住友)  
オブサーバー: 橋倉(東大)

配布資料: 1) 遮蔽定数W・G 53年度計画

議 事

1. 事務報告 (菊池)

- a) 人事 新任: 河北(MAPI), 岡(東大), 南(富士通), 山野(住友)  
菊池(原研)  
辞任: 桂木, 田次, 長谷川(原研)

b) 旅費

	計画	実績	(単位: 千円)
52年度	100	77	
53年度	80	?	

当W・Gの予定額は少なく十分であるとは言えない。

事務局に対し増額要求はするが、活動をサブ・ワーキング・グループ単位の会合を主体とし節約に努めてほしい。

2. 昨年度の活動報告

a) 群定数作成コード・システムの整備

- 2次元線生成データについてENDF/B及びPOPOP4いずれのライブラリーからも処理可能なコードTWOWAYを作成した。
- 中性子のP-波共鳴の処理を正しく扱える様にした

- これらのコードはRADHEAT-V4としてまとめられている。
  - b) 2次 $r$ -線インデックス・ファイル管理用プログラムの作成
    - インデックス・データの収集
    - インデックス・ファイル管理用プログラムの作成
    - JAERI-Mレポートとして報告の予定
  - c) 遮蔽用群定数の作成
    - RADHEAT-V3を用い、ENDF/B-IVから中性子100群 $r$ -線20群、 $P_5$ 近似の群定数を作成した。
3. 53年度の予定
- a) 遮蔽用群定数の作成
    - RADHEAT-V4を用い、JENDL及びENDF/B-IVから遮蔽用群定数を作成する。
  - b) 鉄についてJENDLとENDF/B-IVの比較検討し、遮蔽計算に及ぼす影響を調べる。
    - 特に自己遮蔽効果及び $\sigma_t$ の効果調べる。  
サブ・WG, ◎川合, 岡, 佐々木(研), 河北, 南, 竹村, 大竹, 小山
    - 非弾性散乱マトリクスの規格化, 及びレベルの扱を調べる。  
サブ・WG, ◎山野, 山越, 松本, 竹村, 笹本, 川合, 大竹, 小山  
注) ◎印はサブ・WG・リーダーを示す。

尚具体的な検討方法はサブ・WG別に検討し6月上旬までにまとめる。
  - c) 2次 $r$ -線インデックスデータの収集
 

継続性の強い仕事であり、W・Gの作業としては適当でないと考え、運営委員会に取扱いを一任しており、当W・Gとしては今年度は放置する予定である。
4. 主な討議
- 鉄以外の断面積についても考慮する必要がある。  
しかし鉄について検討すれば、同様な問題を含む他の核種についても解決法は見出される。

- ベンチマーク・テストは、まず思考実験を行ない、問題点を整理した後に考慮すべきである。
- ベンチマーク・テストにより断面積の感度解析は出来るが、断面積の値いまで議論することが出来るのか？

次回会合予定

各サブ・W・Gの検討方法の提出（6月上旬）をまって定める。